

中間見直しにあたって

平成24年8月14日の集中豪雨により床上・床下合わせて約900件という甚大な浸水被害を受け、平成27年に令和16年度までの20年間で行う実施計画として「高槻市総合雨水対策アクションプラン」を策定し、雨水貯留施設などを整備してきました。今般、アクションプラン策定から10年が経過し、これまでの雨水対策施設の進捗や整備の課題を踏まえ、雨水整備方針を中心に見直しを行ったものです。

これまでの取組と今後の整備

《雨水対策施設整備》

・安満遺跡公園内雨水貯留施設	20,000m ³	・流出抑制施設（公共）	13件	3,141m ³
・高槻城公園内雨水貯留施設	5,650m ³	・流出抑制施設（民間）	9件	1,811m ³
・JR高槻駅北駅前広場雨水貯留施設	250m ³			

〇整備効果と課題

《整備効果》 令和3年8月13日の集中豪雨（56mm/hr）



➡ 下水道計画（48mm/hr）以上の降雨に対し対象区域の浸水被害 0件

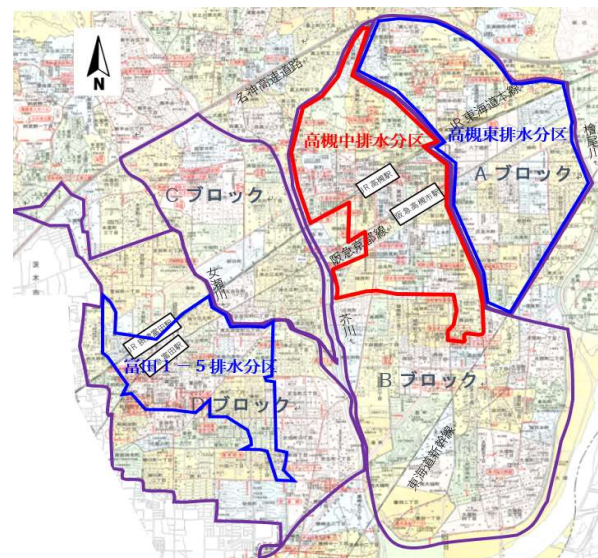
《課題》

今後の整備において、浸水想定箇所近傍に一定規模以上の公共用地はほとんどなく、**用地確保が大きな課題**となっています。

〇重点区域内の優先整備箇所の選定

重点区域内の排水区分ごとの被害件数（平成24年8月豪雨）とシミュレーション結果でのリスク値（45cm以上の浸水面積/ha）で評価し、高槻中排水区分（B地区）を**最重点地区**としました。

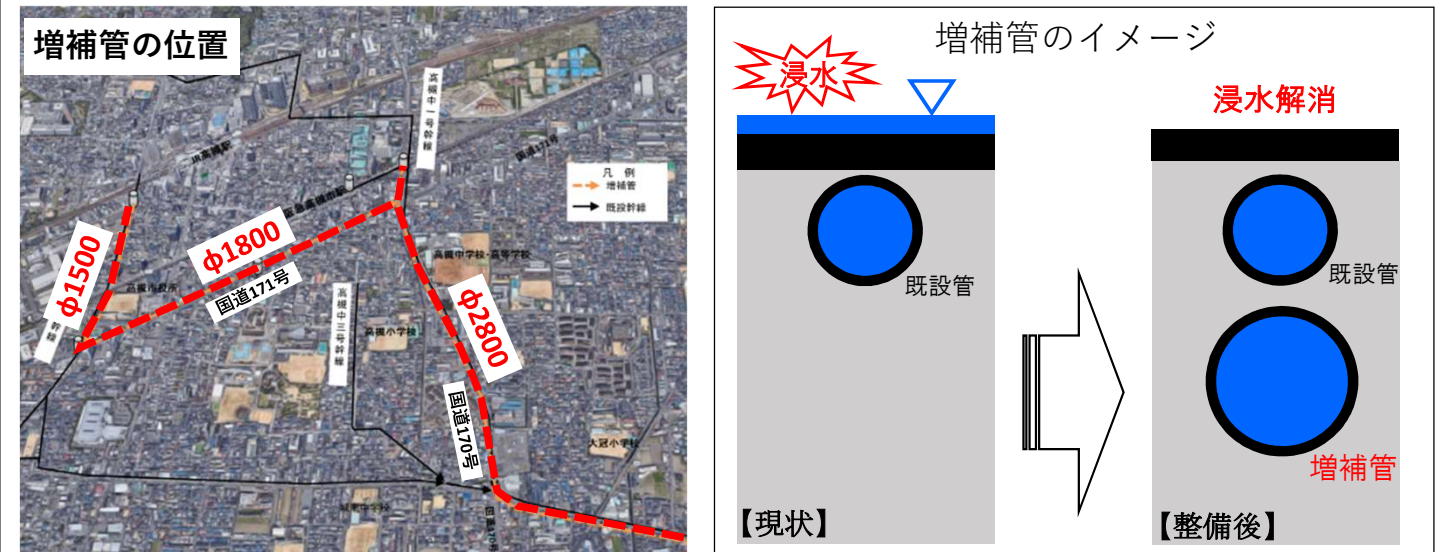
リスク順位	排水区分名	被害件数	リスク値	備考
1	高槻中排水区分	197	75.7	最重点地区に設定
2	高槻東排水区分	185	21.5	整備済
3	富田1-5排水区分	97	62.7	



〇今後（5～10年間）の具体的な整備

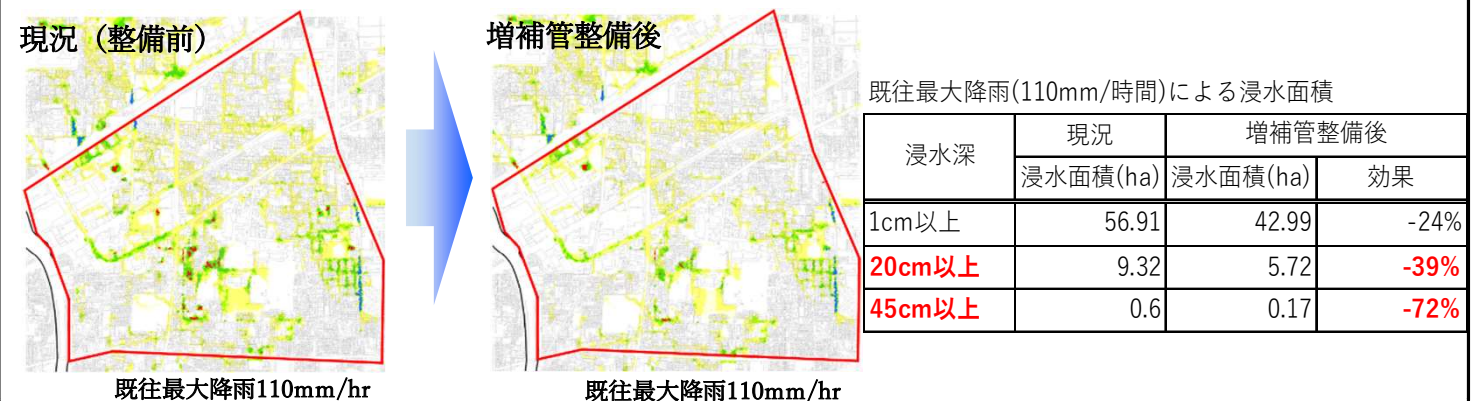
最重点地区の浸水被害軽減対策として用地確保等の課題を踏まえ、国道171号、国道170号等の道路直下に増補管を整備します。幹線管きよが二重化されるため、大規模災害等の障害発生時にも機能不全が防止できることから、リダンダンシーの効果にも期待できます。

増補管の整備と効果



《整備効果》

増補管整備前後は下図のように、全体的に浸水区域が減少し、20cm以上の浸水は**約4割減少**、45cm以上の浸水面積に至っては**約7割減少**することをシミュレーションの結果より確認しました。



その他の地区の整備

下水道の計画降雨に基づく雨水排水施設の未整備箇所の解消を行う他、計画降雨を超える雨への対策については、公共用地が確保できる段階で雨水貯留施設の効果を検証し整備を実施するとともに、雨水流出抑制施設の整備やソフト対策と合わせて効果的な浸水被害の軽減を図っていきます。

雨水貯留施設の整備規模

最重点地区の増補管整備後の雨水貯留施設の整備規模については、雨水対策の進捗や地盤高の更新を踏まえたシミュレーションの精査により下表の規模となります。

《雨水貯留施設の整備規模》

（単位：m³）

重点地区	現計画	増補管整備後
A	20,000	20,000〔完了〕
B	160,000	63,000
C	17,000	11,000
D	122,200	67,000
合計	319,000	161,000